



茶色のクレヨンとウポポイ



岩内西小学校長 佐古岡 香

じりじりとした日差しがまぶしい季節となりました。夏本番、北海道の短い夏真っ盛りです。この暑さの中でマスクを着用して「おはようございます！」と登校する子どもたちを気の毒に思うとともに、新しい生活様式がすっかり定着しているのだとしみじみ思う今日この頃です。

さて、6月半ば、米ミネソタ州の黒人男性暴行死事件がきっかけで各地で抗議行動が起こるなか、プロ野球東北楽天イーグルスのオコエ瑠偉選手がツイッターで「物凄く嫌だった過去」として幼時からの体験をツイートしました。夏の甲子園で活躍したオコエ選手の父はナイジェリア人、母は日本人です。保育園の時「親の顔を肌色で塗りましょう」と言われ、茶色のクレヨンで描いた絵を笑われたこと、小学生になって野球を始めると年上の子から肌の色について笑われ汚い言葉を浴びせられたことなど、過去のつらい経験をつづっていました。幼いオコエ少年の姿とその時の心情を想像すると胸が痛みます。

また、先日7月12日、白老町に民族共生象徴空間、通称「ウポポイ」が開業しました。4月24日の開業予定が新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため延期されており、待ちに待ったオープンの様子をニュースで目にした方も多いことと思います。差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会、アイヌが特別でない社会を築いていくための象徴として、複合的な意義や目的を有する空間として整備されました。このような経緯から、ウポポイの開業はとても喜ばしいと感じる一方で、アイヌ民族の受けた迫害や差別などの負の歴史から目を背けてはいけなように思います。過去から学び、学んだことを力にして、明日を生きることが人として大切なことだと思うのです。



差別や偏見は簡単にならないうことは重々承知しています。ですが、偏見の目で見たり差別を口にしたりする、理不尽な偏見や差別に傷つき苦しみがいている、そんな悲しくつらい世



中ではなく、様々な価値観が認められ自分を表現することができる、ありのままの自分でいられる世界になれば・・・と思わずにはいられません。オコエ少年やアイヌの悲劇を繰り返すことなく、子どもたちが可能性の翼を広げ羽ばたけるような世の中にしていくことを、社会や大人は求められていると思います。

「ウポポイ」とは、アイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」だそうです。学校も多様な「個」が集まる空間です。これからも、一人ひとりの違いを受け入れ、大勢で歌うこと(共生すること)を通して、子どもの健やかな成長の場としていきたいと思っています。

最後に、本日で1学期が終了いたします。保護者の皆様、地域の方々のご協力に感謝いたします。